

□随想□

神戸

あれこれ

丸谷 才一

え・津 高 和 一

神戸はぼくのいちばん好きな街の一つで、などというとずいぶん詳しいみたいだけれど、なに、ぜんぜん大したことはない。今度で三度目か四度目じゃないかと思う。

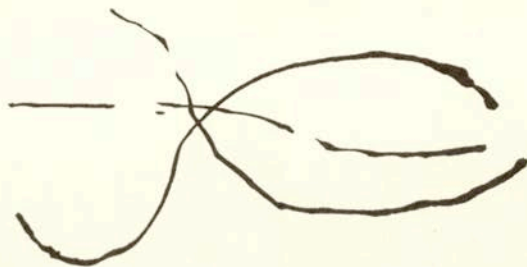
今度は、さる出版社の文学全集の「大岡昇平集」に添えられる「文学紀行」という変なもののための取材で、これはいうまでもなく、大岡さんの長篇小説「酸素」について書かなければならないからである。ついでに記しておけば「酸素」は惜しくも未完になっているけれど、おそらく日本の社会小説の代表作で、もし完結していれば日本文学史にはなほだ重要な位置を占めていた作品に相違

ない。

そういう長篇小説なのに、今まで単行本のほかは刊行されていなくて、広い範囲の人々に読まれる機会がなかったことを、ぼくはかねがね残念に思っていたのだが、今度の文学全集でその渴が医されるのは非常に嬉しい。

大岡さんはずいぶん長いあいだ神戸に住んでいらした方だから、まるで永井荷風が戦前の東京に對して取った態度を思わせるくらいに、この港町の全貌を一つの長篇小説のなかに封じこめようと努力している。

ぼくが「神戸っ子」の岡本君という絶好の案内

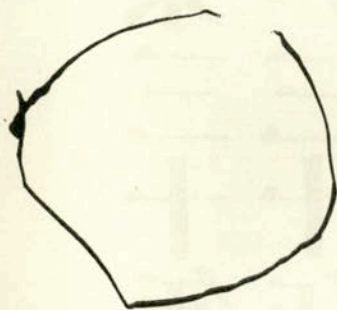


あ

役を得て歩きまわったのは、主として、メリケン波止場から第四突堤へかけて、金平町の帝國酸素本社（つまり元の帝國酸素の工場）、須磨の離宮公園のあたり、六甲のゴルフ場の四つなのだが、これは大岡さんの小説のなかの舞台の一部分で、これだけ見ても、いかにもこの地理を愛する作家にふさわしく、神戸の種々相を押えようとしているのがよく判ると思う。

そしてよく判るとしては、晴れた港も楽しいし、雨の六甲もなかなかよかったけれど、同じ雨の日に散策した離宮公園の趣が忘れられない。あの公園に乱れ咲いている薔薇の花の真紅は、ヴィクトリア朝の色彩感覚が（グルーム以来のイギリス人たちによって伝えられたせいだろうか）残っているように感じられた。それにあの公園は、区劃が変るごとに、ハイカラな感じから一転して急に日本調になったりする、そういう変化の妙が大層おもしろかった。

本



神戸の夜のほうは、陳舜臣さんや日本ヘンケルの竹本進さんに案内していただいたが、牛肉の味魚の味のよさにすっかり満足した。食いしん坊の大谷崎が東京を捨てたのも判るような気がしないでもない。もっとも文筆業者というものは、よほどの文豪にならない限りジャーナリズムと距離を取って暮しを立てるのにむずかしい商売だから、ぼくが神戸に移住する日はおそらくあるまいと思う。スモッグの東京で暮すのがぼくの運命であろう。

と書いて思い出したのだが、神戸という街の快さの理由としては、建物がせいの低いことと、通りの閑散なことをあげなければなるまい。通りを歩いていても、これだから気が休まる。そして本来ならば、そういう静かな風情こそは文明というものの一特徴なのである。この街の発展を願う立場とはおそらく相反するだろうが、ぼくとしては神戸の通りがいつまでも今のうちに、車の影も人間もまばらであってほしいと思っている。

そうそう、いい落した。神戸の女のひとのことを書くのを忘れてはいけないう。元町を歩いていたら、前をゆく二人づれのミニ・スカートの娘のうちの片方が、

「開港場の女の言葉は荒いやねん」

といっているのが耳にはいった。

しかしその語調は、ぼくには、はなはだ甘い感じのものであったのである。

〈作家〉

□随□想□

東京三十年 神戸三十年

福 富 震 一

え・津 高 和 一

江戸っ子の神戸観というものは、とにかく言葉にすると刺があるものだが、神戸在住三〇年となると、東京からの流れ者のなれの果てというものの今や立派に神戸っ子となって神戸の自然に抱かれているのだから、考えてみるとだらしなない話だがこれはこれで結構面白い観察者になったつもりだ。一口に、神戸は海と山と緑の街だと表現するにしても、これが十年一日の如き口調であっては、いかげん、神戸の住人としても鼻につく。実際海は後退はするが汚れ、山も退くほどに団地が林立し、新しい環境はできつつはあるが、昭和十四年、医者から転地療養の命をうけて、東京を後にして着いた当時の、海からの穏んだ潮風と、山麓を吹き下ろす涼風に囲まれた、あの随分と柔らかい気候だなァと思った感じは、今日になつてなくなるうとしていく。

その転地療養というのが、なにしろ九死に一生を得た中支でのソ連兵狙撃による腹部貫通銃創という致命的なもののためであったが、神戸の柔らかない気候が幸いするという医者の命による。

学校を卒えて一年志願の軍隊に行き、それが有名な麻布の第三連隊、少年兵の教育士官であったこの連隊は二・二六事件に関係し、当時の少尉連中とは少なからず面識がある。兵舎は鉄筋で、伝え聞くところによると貴族しか行かれない立派なものであった。そして、これも後聞に属するが、私の親しいゴルフ仲間である作家の白川渥氏が同じ三連隊、それもほぼ同期だということだ。ともかくにも、三連隊には変った連中がおり、今も交際しているが多い。

三連隊から東京市の保健局に勤務、落ちつく間もなく昭和十二年十二月、日支事変と共に召集、



中支一〇三部隊に配属されたが、これが単独赴任で、はるばる中支の部隊を求めて自費で応召した戦争に行った者は多いけれど、自腹を切って中支に足を踏み入れたのは私ぐらいのもの、と懐旧談で口火を切ることがある。その結果が自腹に穴をあけることになった。機関銃隊長として死骸を踏み越えて行った先で迎えてくれたのが、麻布での見習士官の時、毛虫の如く嫌われていた教官で、なんとさそり大隊長の異名を持っていたが、私はビールを飲ませてくれるほどの歓待であった。

神戸はそれ以後の話になるのだが、転地療養の後、結婚して、知り合いが大阪で軍需工場をしていた関係で黒鉛るつぼの工場に勤務、しかし空襲の気配が迫まると神戸から通勤するのは危ないと思われ、伊丹の三菱電機に決まったが、これも反対、結局、一番近いところということで勤めたのが、当時三宮のクレセントビルにあった神戸製鋼本社で、これは徒歩通勤であった。やがて神戸工場の職員課課長代理で社員の給料計算をしていたが、なんとなく景気がよくて、オリエンタルホテルへ昼飯を喰いに行ったほどだ。元町はカフェという雰囲気であったが、山手、加納町辺りには高級のムードで勝負するバーがあり、飲み物、飾りつけ一つにしても、東京と異なりいいものだった。そして、そういう女性ほど標準語を喋るせいだ。東京育ちの言葉もすんなり入って行けたし、友達がいらない神戸での夜を飲み歩いたものだ。しかし仕事に関しては厳格で、憲兵が私の後援者になるほどであった。

婦女子は何か職を手につけるべきだ、というのが戦時中から徹底して、これがオシャレとか洋裁

に向かい、戦後の各種学校のブームを興したようだ。同時に農家が豊かになり、郡部での婦女子教育の典型が洋裁となった。『ドレスメーカーを出た才媛』と披露宴で紹介されるようになったのも戦後のブームを反映している。その結果、各地の各種学校に特異性が失われ平均化し、その社会的地位が低下したようだが、実は、最近のゲバ棒のおかげで再認識され、本当に生きがい、働きがいを求める人がくるようになった。この時に、女子教育も、全体の日本の教育の中で考え直して、設置する学科を整理し、特色ある専科で社会に貢献することが、戦後の復興の雰囲気づくりに色を添えてきた女子教育界の課題だと思う。

弁護士か政治家にならなかった私が、戦後の神戸で明治を見つけないことができず、はるか沖繩の石垣島で純粹な日本を発見してノスタルジアを感じたのだが、そういう沖繩の年寄の考え方は、今ではすでに内地にない。そして、私は巨人、大鵬、玉子焼きという平凡な人間だけに、このたび六月二三日、教育功労者として藍綬褒賞を授与したが、新宮殿の春秋の間で陛下にお眼にかかること涙がこぼれた。これで都合三度お会いしたことになるが、昭和九年の天長節の折、代々木練兵場で大隊副官として馬上で拝謁した頃を想起すると、時代の流れをつくづく思い知らされたことであった。

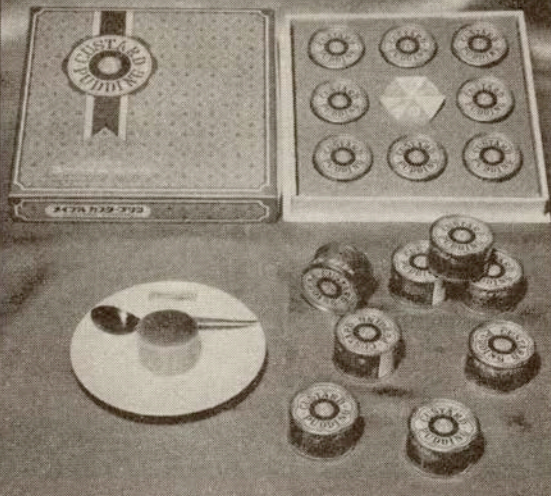
〈明石短期大学理事長
神戸ドレスメーカー女学院理事長〉



お中元に...

クールなおくりもの

メイプルカスタープリン



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

本社・工場 神戸市東灘区鶴岡町1 (市立美術館東隣) TEL 22-1164・9865
 三宮センター店 神戸三宮センター街 (洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 33-2421・4314
 生田店 神戸三宮生田路 (随上喫茶室) TEL 33-0156・7343
 さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 39-3558



世界の人々に

愛される

Kitamura Pearls



北村真珠店

元町通2丁目60 TEL 33-0072

★ヨーロッパひとり旅
〈上〉

パリ・ニース

小泉 康夫

〈写真も〉

パリのオルリー空港に降り立ったとき、やはり何とも落着かなかった。

とにかく、言葉の方は全然駄目、その上に初めての海外旅行なのだから落ち着けというのが無理なのだ。

一さっそく、マナーチェンジの窓口で「これ、ちいそうして」とやってしまふ。むこうはちよっと困ったような顔をしたが、ちゃんとフランに換金してくれるし計算も間違っていない。だが瞬間、これは大変な旅になると観念した。

ホテル・トロヨン、これがパリの宿。ここには幸いなことに日本語がわかる娘さんがいて万事、気らくにやる事ができてどれほど助かったかわからない。

一もっとも今度の旅行は、エール・フランスの招待であつたため、ちゃんとした心尽しでホテルも選ばれていたのであろう。こんどの旅行のホテルで日本人が多かつたのもこのホテルだし、若い日本人客といえはほとんどがJCMメンバーで挨拶するのが大変なほどだった一

☆ ☆ ☆

到着してからパリでの行動を決める。とりあえず、パリの市内一巡観光バスに乗る。

そして、びっくり仰天した。これは本音なのである。観光バスはパリの名所旧蹟をまったく遠慮なくささっと一巡する。ひとつひとつを見て眼を回す余裕がまったくないままにあらかた回ってしまうのだから大変な心残りだったが、パリを知るためには効果的だった。

このあと、足にまか



シャンゼリゼ通りのカフェテリア



パリの広告塔

彼は若いせいもあって、余計に頭にきてたのかも知れないが。また、そのとおりなのでおかしくて困った。

公園の並木やベンチ、ご存知のセーヌ河の畔など、いや街のショッピングセンターの大通りでも、レストランでも若いカップルの愛情の交換は天真爛漫で、チュッチュッと鮮やかなキス。日本の若ものたちも最近、上手になってゴコチナイ感じはしなくなったが、まだほど遠い。

それでいて、パリの娘さんの感じは非常に可憐、可愛らしい、これは女性が大切にされてきたひとつの歴史があるためでもあるのだろうか、ヨーロッパの女性には、東洋の女性のかげりがなく、美しい。もっとも、どちらが好きかというのは、それはまったく別の話である。パリジェンヌの流れるような美しい言葉を耳にすると、京都を思い浮かべる。この二つの街は姉妹都市であるということだが、よく似ている。歴史の古さも似ているし、ある意味で街のたたずまいも似ている。いいところも不都合なところも似ている。

パリに、いまの日本の若ものが住みついたならば、やはり、反撥する何かがあるだろう。パリは大変な街だ。もうでき上がってしまったという街なのだという想いが深い。街を彩どるショッピング・ストリートが楽しい。ウインドウのディスプレイは心憎いほどにセンスがいい。

商品は相当な値段だが、商品のデザインは見事なものだ。しかし、パリならではのという商品は別に、神戸の商品と比較して見て、神戸の商品が見劣りするようには思われない。恐らく世界の商品を比較してもこれは同じことがいえるのではないか。

だが街の美しさは比較するべきがない。パリの街の美しさはパリに住んでいる人、一人一人が創り出している驚くほど調和のとれた美しさなのだということに気がつ

せて歩きまわったのだが、この観光バスで一巡が大いに役立ったことを報告しておく。

パリ、やはりこの町こそは花の都の名にふさわしい。お世辞でもなんでもない。いまだきの言葉で「カッコイイ」のである。そのカッコのよさはやはり抜群で、しゃれたものである。

レストランのボーイから町の運転手、商店で働いている人、ビジネスマン、レディ、ポリスからホテルマンとみんなきちんとしている。質素だけどなかなかオシャレなのだ。

パリの楽しさのひとつはカフェテリアなのだと思う。碧い空に見事に調和させた、濃いベニ赤のテントを張って道に椅子が並べられ、そこにパリっ子が思い思いの姿でくつろいでいるのは、見るからに楽しい。

静かに、刻が経つのを忘れる見事なものである。

パリは、たまたま休日だった——そのせいか公園もまた格別人が多かった。

ホテルで一緒になったのが「パリの女の子ときたら、首が長いのか器用に歩きながらキスしよる」といった。

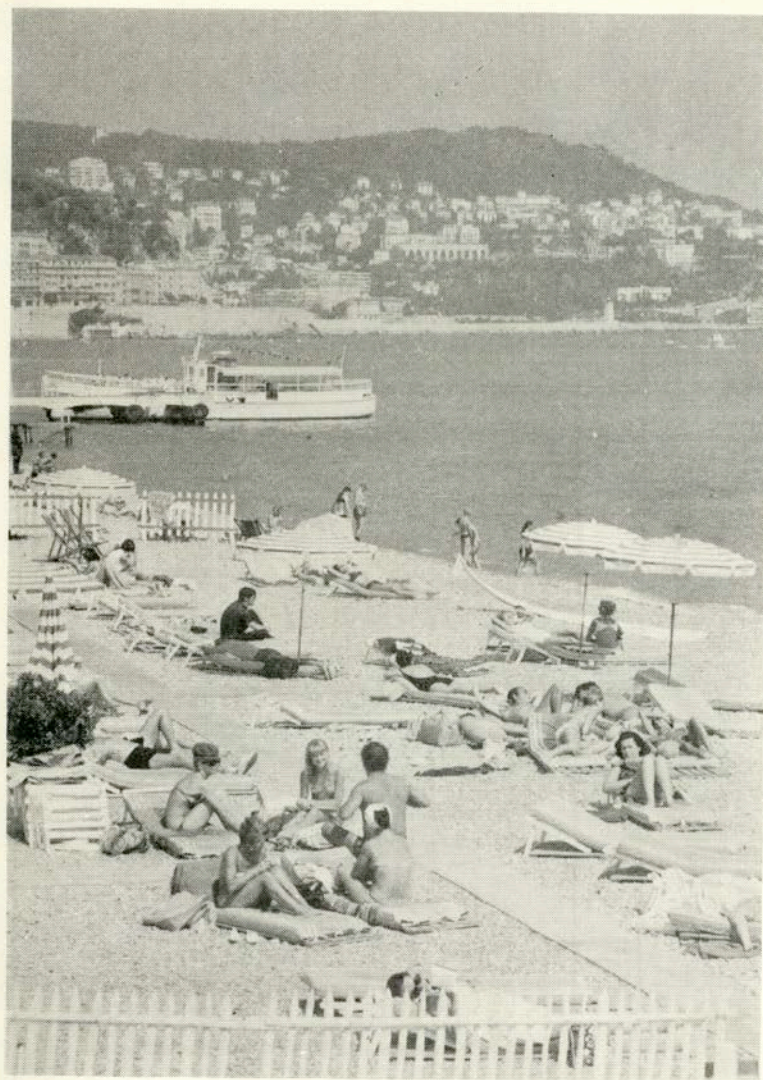
く。パリは一朝にして生まれずなのである。やはりパリは世界で一流の都だ。
ニースの空港から市内に近づくにつれて、懐かしい磯の香がして、青い海がそして鷗が幾羽か群れて迎えて



ニースの宮殿の前で 小泉

くれた。それだけで旅の疲れがふっ飛んだようだ。
「カンナ」「ニース」「モンテカルロ」が南仏の海岸の町、コート・ダジュールと呼ばれる避暑地なのである。パカンスの最盛期には大変な賑わいを見せるそうだし物価も倍ほどに高くなるそうだが、私が行ったときはその期間にははいっていないので人も出も少なかった。
それぞれの町には何軒かの「カジノ」がある。一番豪華なのは「モンテカルロ」の「カジノ」だといわれている。「カジノ」にも何回か足を運んだがおもしろいのは「ニース」の「カジノ」でこの「カジノ」は随分と古くさい感じだが市営の「カジノ」なのである。かけ金も少ないので気楽に遊べる。ニースもモナコも観光や遊びには快適な街である。……つづく

〈本誌編集長〉



ニースの海岸はピキニの花ざかり

涼しさを呼ぶ



ヒロタの シェアイスクリーム



洋菓子のヒロタ

元町店・三宮店・さんちか店・そごう店

服部のオリジナルサングラス

ユニークなデザインの
イタリア製豊富取揃



- * 光の量に応じて色の濃さが変わるレンズ
ニコンフォトグレー大好評発売中
- * 度付サングラスが30分で出来ます
- * ドイツカールツアイス・ローデンス
トック社製新型フレーム新入荷

★

顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 33-1123

★ある集いその足あと

「V I K I N G」

広重 聰



昭和二十二年一〇月、V I K I N G は船出した。創刊同人は九人、このうち現在も同人でいるのはキヤプテン富士正晴をはじめ伊東幹治、井口浩、広瀬正年の四人である。創刊号の編集後記に富士正晴は書いている。

「さて僕等はいやに値のかさばる黄色の帆を張ってどちらの方角へ出かけるのか。僕等の合言葉は何か。それはしばらくたてば僕等にも判ってくることだろう。僕等は唯航海したいだけで船出する酔狂さも少しは持ち合わせているが、それだけでもないだろう」

黄色の帆というのは表紙に使われた紙が黄色だったのである。ガ

リ版刷、袋とじ、四八頁であった。

昭和四十二年七月の二〇〇記念号編集後記で北川莊平は、「しばらくたてばどころか、それから茫々二十年。V I K I N G は走るべき方角も、唱えるべき合言葉も、いまだによくはわからぬままにとにかくはしり続けてきたのである。」と書き、富士正晴は「何も面白くない、そして物資のない敗戦直後、雑誌の紙もトウシャ版の原紙も貴い集めであり、雑誌をとじる糸すら手に入らなかった状態の中で、トウモロコシの粉の主食を食いながら、何の目的もなく出版したが、今や、何もかもある時代がきて、そして今の方が何か初期のころより、もっとこの世が面白くない感じがしてならない」と書いた。

そして、昭和四十四年六月には二二三号が出る。維持会員の中には、創刊の年といわずそれ以後に生まれた者もあり、かれらの作品も載るようになっていく。とはいえ「文学雑誌V I K I N G は自らの存続を唯一の目的として発行されている。ちょうど、人がよく生き、長く生きること求めるように」というからにはべつに驚きあわてる要はないだろう。

特定のスローガンや主義主張はない。それでも強いて編集方針めいたものをいうとすれば、悪作尊重である。つるつるとすべっこてお上手な作品なら、V I K I N G

Gにのせることはないのだ。悪作は駄作ではない。この区別こそ大切なところであり、きょうび世間で文運隆盛めいてはいても、どうやらお上手やら駄作が多すぎるようである。

現同人の顔ぶれは、たとえば芥川賞・直木賞の候補になった者を拾うと、先の二人をはじめ、清水幸義、島京子、津本陽、田中ひな子、竹内和夫、山田稔などがいる。もっとも、「賞」の実物とはあんまり縁がなく、「ほんまにシヨウのない集団や」というゆえんである。

V I K I N G の表紙には、V I K I N G ・C L U B 神戸・東京と印刷してある。このところずーっと発行所は神戸以外だが、この神戸は変えていないし、今後もし変えないだろう。要するに関西をひくろめて神戸プランチであり、東京とその周辺が東京プランチということになっている。しからは本部はどこだ、といえば、本部は富士正晴だというわけである。「V I K I N G を継続発行するために、V I K I N G ・C L U B があり、V I K I N G ・C L U B に生氣を与えるためにV I K I N G はある。」V I K I N G は月刊で、従って毎月、神戸と東京で同日に例会を開いている。

V I K I N G ・C L U B

芦屋市呉川町5-15

広重方

攻撃型の企業活動を！

★神戸の有利な自然環境のもとで、神戸の街は、次々とプロジェクトを実現し、海空陸の交通革命と情報産業時代をむかえています。その中で、神戸青年会議所は、勇気ある実行団体として、神戸経済界に名乗りでした。本誌・百号にあたり、神戸JCである若手経済人に、神戸経済界の方向付けをしていただきたいと思います。

＜編集部＞

★今こそ、神戸経済の方向を決めるべきだ！

鳥越 これから神戸はどうなるのか、例えば観光都市になるのか、ショッピングセンターになるのか、港湾都市になるのか、それとも国際空港などができて情報センターになるのか、いろんな見方があるが、今の段階はそうあるべしとやっているのだけれど、はたしてそうなるのかという不安がある。身近な問題として商店街は三宮周

牛尾吉朗氏



鳥越浩氏



大窪朗氏



牛尾吉朗 鳥越浩 滝川博司 土居丈治 大窪朗 寺本晃

＜ウレオ工業社長＞
第五代神戸青年会議所理事長

＜神戸オプテカル社長＞
第八代神戸青年会議所理事長

＜兵庫トヨタ自動車取締役＞
現神戸青年会議所理事長

＜土居自動車工業専務取締役＞
現神戸青年会議所副理事長

＜大窪鉄工所専務取締役＞
現神戸青年会議所副理事長

＜淡路屋専務取締役＞
現神戸青年会議所副理事長

辺の建直しをやっていますね。フラワールード、噴水、地下街そしてセンター街と手を入れて、近隣の購買力を神戸に集めようとしている。ところが神戸の一流店は全部東京に店を出していますよ。東京のある百貨店には神戸タウンまであります。神戸だけでは儲からないという不安があるのでしようか。東京に店を出して神戸をPRするんだという名目もないとはいえないが、やはり神戸だけでは、という気持がその裏にあるようだ。それは中

小企業だけでなく、大企業においても、本社を東京に移す会社が増えている。そして重役の執務はほとんど東京でなされているというのが現状です。今後そういう状態はますますふえるだろうと思われます。神戸で生まれた会社が神戸だけでは消化し切れずにとんとんと東京へ流れていく現状を考えると、神戸の若手経済人といわれている神戸J.Cのメンバーである我々には、このままでいいのか、何をなすべきか、という問題が投げ出されていますね。

牛尾 僕はね、本社が東京にあると神戸にあると変りはないと思っている。国際空港を淡路に造ろうという時期にあつて本社が東京にあると神戸にあると大差はない。商店はいざ知らず、国際化の今、私の会社を例にとると、はっきりいって神戸ではほとんど仕事はしてない。東京、大阪がほとんど、あとは国外ですよ。ではなぜ、神戸に住んでいるかというと、住み易いからですよ。神戸にいる特典は何か。それは住み易いという言葉だけじゃないですか。

鳥越 確かに仕事はほとんど大阪・東京でして、神戸には休息に帰ってきている経済人が多いですね。

牛尾 地域性が無くなってきたということに神戸人が気がつけば、本社を神戸に移したりはしないはずだと思う。だからね東京情報センターに対して神戸情報センターを作れというのは神戸の地域性を深めるということではなく、西日本にそういうのが一つ必要である。それに

は神戸が一番場所的によいのではないかということのた
めだけです。神戸に置けば、港もあるし、国際空港も
できるということで、西日本の情報センターは神戸に設
けるべきだと思うのです。

★神戸への愛着を具體的経済活動で発揮せよ、

鳥越 ただね、神戸J.C活動は地域問題に密着したもの
だから、まず地元・神戸の地位向上をはかるという意識
がある。その場合どういう方向で地位向上を目指すかが
問題だと思いますね。

大窪 神戸を考える場合、それは個人の気持のあり方の
問題ですが、具体的にこうすればよい、という方向と決
意が要るわけです。そうなると、神戸への愛着を気持の
軸に持っていて可能になるのです。神戸が好きだから
という気持が、具體的な経済活動に発揮されるのです。

滝川 神戸への愛着は十分にあるが、仕事上、神戸を中
心にして商業活動をしなければならない人達が神戸の現
状に対して焦燥感というか不安を持っている場合がある
だから、神戸が嫌いなら出て行け、ともいえない。そう
いう人達をも引きとめる魅力を神戸が持つことが、神戸
の経済発展の根本ではないでしょうか。

土居 それは行政の問題とも関連して難しいですね。

滝川 そう思います。都心づくり、副都心づくりとい
われているが、地元民にはなかなか理解できないことが
多い。しかし、この事が神戸の経済活動の基盤ですよ

土居 文治氏



滝川 博司氏



寺本 漢氏



牛尾 神戸人を人種的に分けると、インディアンの人種

だといつてよい(笑) 国際港都であるのに、案外と経済的問題に関しては排他的で保守的なのですね。だいたい「神戸っ子」という雑誌が一〇〇号続くというのがその良い例ですよ(笑) 神戸は伝統的によそ者を吸収することで成長してきた街なのです。それが、今になって、排他性がガンになってきた。その典型が、ダイエーでしたね。今や神戸のダイエーでなく、日本のダイエーですがそれが神戸に受け入れられるのには、いろいろと苦労があった。時代の波と共に生きることが大切ですね。この点、反省することが多いと思います。皆が田舎の名士でおさまっていれば神戸はある意味では住み易い街だ。土居 それは今の経済界にはつきり感じられますね。

★陣地を築いて企業を攻勢に向けよう!

大窪 風土的なものからくるのかも知れませんが、何か厳しさが欠けてるようですね。現在の自分を守っておればという感じがします。他が出てくるのならそれ以上に自分も努力して出ていこうとする気魄に欠けている。自分の城を守るうとするのは、本当に守っているかどうか疑わしい。攻めることが、守りによりつながらんではないか。じゃんじゃん攻めていったらいいと思う。例えば百貨店が三宮に進出する話があるが、それがいい例だそのことによって、自分も敗けてはいかんとする気魄が行動となって、そこに自分の企業の発展と、ひいては神戸の発展があるはずなんです。

鳥越 たんに商店街だけでなく経済界にもあるのですね
牛尾 そう、その排他的というか島国根性が神戸の発展を妨げているのだね。これは日本全体にもいえることです。このことが結果的に、優秀な人材、企業を吸収することを妨げているし、又、神戸で成功するよりも、まず大阪、東京と立地を選ぶ人がでてくる。神戸が住み易いというのは、神戸ほど自然に恵まれているところがないからだ。それを生かし、神戸で成長する企業を育てる

義務が我々にはあるのではないか。

鳥越 そうですね。経済界は、特に神戸の経済界はサロン化してはいけません。自由競争の中で、経済界がサロン化すると、排他的になって発展がとまる。地元への愛着は、サロン化して語りあうのではなく、厳しい実行力を持つべきですよ。

牛尾 その通りだね。実行団体として初めて、地元に貢献できる。

鳥越 その殻を打破るのが神戸青年会議所でなければならぬ。それが神戸JCの絶えず追求すべき問題です。

牛尾 戦後が一つのチャンスだったね。ところが、その時の異邦人が、この二十数年間に、またインディアンになってしまった(笑) 他の都市ではそれが打破られたのに神戸では残ったのです。神戸以上に島国根性で固まっていた姫路が、戦後の混乱のなから立ち直って、今日、外来者を受け入れる体制をもっている。

大窪 神戸には、地域としては、又、自然環境にしても人を企業に魅きつける魅力は十分にある。この魅力をさらに伸ばすことが必要になってきていますね。

牛尾 確かに魅力はあるのだ。貿易センター、ポートアイランド、国際空港、それに明石架橋に伴う淡路開発と、神戸のプロジェクトは実現に向けて経済基盤をつくりつつある。その魅力に対して、神戸に経済力が集中してこようとしているが、それを神戸経済界がどう受け入れるか、その受け入れ体制が一步遅れているような気がするのです。その遅れを、これから埋めあわせるという課題が神戸JCに与えられていると思う。あらゆる分野の青年経済人が集まり、しかも40才定年制で、毎年の新陳代謝がなされ、新しいエネルギーが得られると共に、活動的な現在に十分耐えうる組織を持っている。現在、メンバーが二百人を越しているが、サロン化しない心構えが大切ですね。

★情報産業ではアメリカと五年の遅れ

編集部 神戸貿易センターも今年暮れ完成し、いよいよ

神戸にも情報産業時代が押し寄せますが、これに対して経済界はどういう態度をとらねばならないでしょうか。

牛尾 これは業種および感覚のレベルの差で考え方がそれぞれ違ってくる。文化人といわれる人達と、我々経済人の考える情報産業はちがうですね。海外を廻って見たことからいえば、日本は情報産業という点では三年ないし五年の遅れがあるのは確かだと思います。海外の情報産業というと、コンピュータやマイクロフィルムが大いに利用されているが、それを受け入れるベースをつくるのが重要ですね。

鳥越 去年の11月、アメリカ・ヨーロッパを廻ってきたのですが、向うでは、本店と支店の距離がないのです。本店にいて、支店の状況が一目瞭然に分かるのです。コンピュータがはじきだすですね。だから本店で一括管理がなされる。予算評価、発注から納入までコンピュータがするし、各工程にコンピュータを使い、チェックカーにまでコンピュータが使われている。給料計算もそうです。ただ日本でコンピュータを使用する場合、それを導入するためのベースをきちんとして、導入してからの利益計算までなされないと、まだまだ問題が多いでしょうね。

牛尾 ヨーロッパ諸国においては国際企業化をどんどんすすめているのです。例えばドイツ、スイス、イタリアに工場を持ち、スイスにセンターを設け、テレックスで各国の工場に指示をしている。国家間における共同利益追求のため情報交換を行っているのですね。そういうことを日本の一企業で利用できる能力があるかどうか疑問です。日本の企業のベース自体が、まだ国際分業化を必要とするところまでできていないのです。今は、そのベースに達することが第一ですよ。アメリカでコンピュータ室に入れてくれといっても、コンピュータが古いから見せるのが恥しいというのです。そこまでアメリカは進んでいるわけです。

鳥越 私が初めてコンピュータを見たのは昭和二十八年でした。アメリカの小さなドラッグストアでIBMのパンチカードを知ったのだから、それぐらい大きなギャップがあるのですよ。

牛尾 ドイツ人が、日本のカメラは世界一だという。日本人は需要に応じてミニカメラを作るから。ドイツは伝統の上に産業があるからそんなにたやすく時代に応じていろんなものを作れない。だが果して新しいそんなものが将来生きのびていけるかが疑問です。日本では斜陽産業といわれている繊維産業も、伝統産業だからこそ完全産業としてそれがいつまでも残る産業だ、と彼らはいきっている。日本で今、光のあたっている産業は、いわばアイデア産業だといっている。ドイツでは週休二日制、そして水曜日が半日だ。それで人口が日本の半分で、それが日本と同じだけの、それ以上の経済力を持っている。要するに実質的な人間のレベルでしょうね。

鳥越 情報産業は一方では合理化産業といえます。だから合理化が実行されないと情報を生かすことができない。そうすれば利益があると思いがちでも、それができない状況にまだありますね。

★実行団体として評価の高い神戸青年会議所

大窪 神戸JICをシンボライズするものは何か、すなわち神戸JICのシンボルは何かをはっきり示すことが具体的にアクションに移る場合、必要となりますでしょうね。

土居 神戸JICの定年制は、一方では若さと情熱と勇氣、それに行動力のあらわれだから、第一に実行団体としての実績をつみあげていくことでしょう。エコノミックス・アニマルの感覚でなく、中広い意味で、地域社会の奉仕のために時には己を捨てて、犠牲の心で立ち向かう団体に向かうべきだし、また、そう持っていきたい。

寺本 現代に應えるスピーディな情報とアクションを地域社会に提供したいですね。

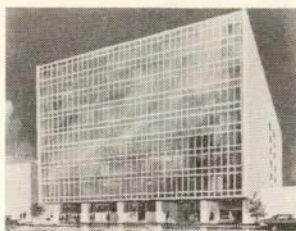
△オリエンタル・ホテルにて▽

経済ポケット ジャーナル



★神戸貿易協同組合 共同ビル建設

神戸の中小貿易商社が団結、協業し、商社の近代化と合理化をはかり、激しい国際競争に打ち勝つていくと、昨年十二月二日、中心となる二十四社が神戸貿易協同組合（理事長竹内与四郎）を結成し、組合員の為に必要な共同事業を行な



神戸貿易協同組合の共同ビル予定図

うことになったが、その大きな足がかりとして共同ビルを建設することになった。

この共同ビルは貿易業務に便利な生田区東町に位置し、総工費約十億円、地下

一階、地上九階、延床面積約一五五二二平方メートル、共同電子計算機センター、エレベーター四基、三二台収容の駐車場を有する大きなもの。すでに貿易記念日の六月二十八日に起工式を済ませ、工事は来年十月末日をめざしてすすめられている。すでに約五十社が入居を希望しており、この共同ビルの完成によって、神戸の中小貿易商社の体質は大きく変化するだろうと各方面より注目を浴びている。

★日米コンテナ競争 いよいよ本格化

在来船の七百五十個積みコンテナ船をひとまわり大きくした千個積みコンテナ専用船「箱崎丸」（日本郵船向け一九、九一〇重量トン）が六月十七日、三菱重工神戸造船所で進水した。同船は二十五次船（四十四年度）で建造される七隻のコンテナ船の第一船で、同造船所で進水したコンテナ船とし

ては四隻目。世界最大の高出力ディーゼル機関を搭載し、最高速度二十六ノットという超高速船。九月末には日本郵船に引き渡され、豪州航路に就く。

ところで輸送革命として脚光をあびているコンテナ船で、日本（神戸）に寄港している船の数は表のとおりだが、今年から来年にかけて、あらたに邦船七隻をはじめ、マトソン四隻など北米、豪州航路に続々登場し、戦域は欧州航路にもおよびはいる。なかでも十四のコンテナ船を保有する世界最大のコンテナ海運会社シーランドの動きが注目さ

邦船各社合計	6
シーランド(米)	8
マトソン(米)	2
その他(米)	4

★神戸銀行九月から
百八十億円に増資
神戸銀行では九月一日から、自己資本の充実と業務拡大に伴い、資本金を現在の百三十五億円から三分の一ふやして百八十億円に増資する。

これで同行は資本金でみると都市銀行中では、新しく都市銀行に加わった埼玉銀行（資本金百六十二億円）を抜き、協和、大和とならぶことになる。

★KOBE オフィスレディ★



曾根千賀子(19)
タキ商店営業課勤務

人気スターでは石坂浩二とピンキーのファンだという。何ごとにも陽的ではがらかな性格。高校時代は宝塚歌劇部智わたるの熱狂的ファンだったそう。目下、週にお茶とお花一回、料理一回、英会話三回というハードスケジュールでがんばっている。しかも仕事は楽しいというバイタリティー溢れるお嬢さんだ。しかし時には仕事も稽古ことも忘れてのんびりすごしたい気分にもなるそう。

長田区林山町在住 43年度夢野台高校卒業



より高い精度を
実現した
高振動自動巻腕時計
“ロジックウルトラクロン”



特約店



美 甲 時 計 店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798
三宮店・さんちがファンシー・タウン TEL33-8798

太陽がいっぱい!



'69 ロイヤル

ハワイアン
グラス

おしゃれな舶来サングラスも
豊富に取り揃えております。



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎321212代表
三宮店・さんちがタウン ☎391874-5

「本格派のおしゃれなあなたが好き」



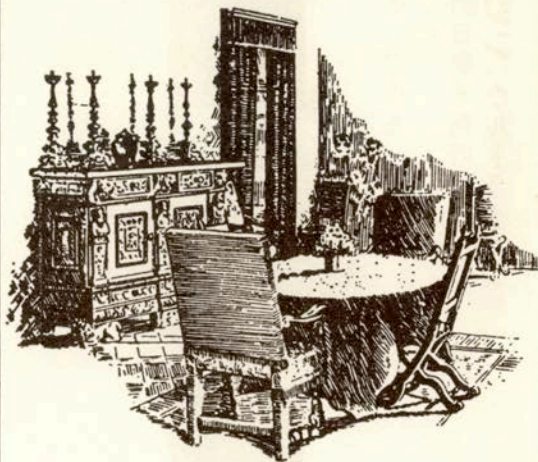
O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸 (39) 3737 (代表)

東京店・東急百貨店 日本橋店内1階 03(211)0511
本店(渋谷)7階03(462)3180

一〇〇号 特集△1▽ 創刊号から愛蔵しています

★愛蔵して欠号なし

藤 本 義 一 △コピーライター▽

3号雑誌の言葉があるくらい、それを出しつづけるということはむづかしい。それ以上に、読者が読み捨てず、愛蔵してくれる雑誌をつくるということは至難だ。私は毎月、あるものは毎週決まった雑誌を読むが、とりおいてあるのは「朝日ジャーナル」と明治屋の「嗜好」（これは季刊だが）そして「神戸っ子」だけ。そのなかでも「神戸っ子」は、創刊号から全冊がそろっている。ほかに「あまから」と「銀座百店」が創刊から最近号まで。これは大阪ミナミの古本屋・天牛書店と、神田の古書市で買ったものだが、いい値段だった。「神戸っ子」もこれから十年、二十年たてば、ビックリするような値段で古本屋へ出るに違いない。だが、私はそのときのために貯めているのではない。自分の役に立つことがあるだろうからだものを書いて疲れたときなど、どれでも旧号を本棚から引き出して読む。たちまち私はふるさとへ立ち戻り、疲れを忘れるのである。

★こよなき友

三 谷 佳 子

△O・L▽

大好きな「神戸っ子」もこの八月でもう一〇〇号/本当におめでとございます。同じ海と山に囲まれながらその性格をまるで異にする鎌倉に住む私が神戸という街の素晴らしさとそこに住む方々の魅力にとりつかれてから何年になることでしょう。

一年に数回から十数回、暇をみては神戸にかけつけ、元町や六甲はもとより北野町や山本通を散策し、海岸通りを歩き、須磨にまで歩をのびし、果ては早朝の山歩きの仲間に加えて頂いたりしているうちに、自分でも知らない間にチヨットした神戸通になってしまいました。そして始めて神戸にきて、花時計を探すのにうろうろしトーマ・ロードもセンター街も何もしらなかった私をこれまでやさしくガイドしてくれた百冊のこの本は、この誌上でおなじみの陳舜臣先生の「神戸というまち」と、我が愛する「神戸っ子」なのです。オリエンタルのロビーでふと手にして以来、ちよっとせいたくな、それでいて親しみのもてるこのセンスある本―神戸のロマンと、町の息吹きを伝え、これからのビジョンや発展性をしらせてくれると同

アンケート



月刊・神戸っ子も、この8月号をもって一〇〇号を迎えることになりました。いままではいろいろと協力いただいた方々に別項のアンケートをさせていただきました。

① 月刊・神戸っ子にどんなことを期待されますか。

② あなたが月刊・神戸っ子の編集者であれば一〇一号からはどんな企画をされますか。

★丸本明子「詩人」

① 明るくて、モダンな編集をいつもすばらしいと思っています。すっきりとしていて、パラエティにとんでいます。今のままでいいと思います。

② 若い人、年輩の人、主婦、などの交流の場、発言の場のようなものがあればとも思っています。具体的にはわかりませんが……。

★阪本勝比古「神戸市職員」

① まず一〇〇号記念おめでとうございませう神戸のユニークな文化雑誌としての活動を高く評価いたします。今後とも文化面に力を入れてください。

② 神戸の発展は最近目覚ましいものがありますが、より住みよい町にするために、神戸っ子ひとりひとりが果たさなければならない問題がたくさんあると思います。お互いの親睦とよりよい町づくりのために、月刊神戸っ子の荷う役割は自ずとそこら出てくると思います。頑張ってください。

★遠藤周作「作家」

① いつも有難うございます。申し分ありません。

② 私なら特報「神戸・うまいもの」号を出します。足で歩いて、うまい店を（どんなに汚く小さくても）さがしてのせます。

★森根和生「美術評論家」

① いろいろな意味での広告誌からの脱皮を期待します。

時に憩を与えてくれるこの小さな雑誌は、私のこよなき友、よきガイドとなったのでした。〈在鎌倉〉

★神戸っ子

百号おめでとう

喜多山洋子

〈主婦〉

創刊号より今もってファンであると言っこの本の魅力は一体どこに一番あったのかしら。

手の届きそうな近い位置にある方々でありながら仲々その所信を伺い得ない人物への、インタビュ。新しい物を常に貪欲な程求める神戸っ子のセンス。そして何よりも、うまい物好きである郷土民の嗜好のそれらがピッタリとまとまった本でした。正直いつてバツしない号の時もあり、はっとする程眼を開かせられる鮮かなページ掲載の号もあり、それ故に来号への夢また消えやらず何をかいわんやでたのしく心なごむものがありました。

ただ、毎号待つ身になってみれば広告の掲載をどの月も同じ形の写真を載せられるのには少からず「ヘキエキ」。もう一考願いたいところ。希望はと尋ねられたら、神戸における誇るべき、すてきな方達、話して魅力あるマダム、マスコミに乗るを好まぬうまいもの屋等を僅か一頁だけでも掲げて爽やかな、よろこびを時には味わって頂きたいものです。

★神戸っ子のよりどころ 小林 延光

〈元町バザー〉

もう百号ですか。早いもんですね。おめでたいことです。

東京の私どもの店でも「神戸っ子」のファンはたくさんありまして、毎月、東京店でキチンとお渡しします。いがいに神戸に関わりあいのある方が多くて、その方々は、神戸を非常に懐しがっていらつしやる。「神戸っ子」も、初号からみると、今発行されている雑誌は、雲泥の差。こういう類いの本の中では完成しているんじゃないですか。それに執筆される人々も、スタッフも初号から一貫していますね。書かれる方も、外国へでると、また帰ってきて書くといったぐあいに、よりどころにしていらつしやる。良いですね。

まあ、私たちのグループがスポンサーとしても頑張ったので続いたのですから、これからもスポンサーの方々は「神戸っ子」を神戸人として育てるのだという意気दै続けて頂きたいと思ひます。

〈ハンブルグにて〉

★楽しい神戸っ子の

プログラム

岡本 玉治

〈鉄鋼業〉

神戸っ子百号をお迎えになるとのこと、全くおめでとうございます。夏は阿波踊り、秋は美術の鑑

② 姉妹都市提携をした幾つかの都市と毎号通信で交換し、大きなビジョンでユニークな記事、市役所や新聞社にマメのできないものゝを載せます。

★藤本義一「コピーライター」

① すでに期待に答えている。まったくできすぎている。強いていえば抜けたところのなかが不満。(ゼイタクいうあの声あり)
② どのテーマもが連載なのは、安定しすぎてハブニングがない。単発の企画をたてるなり執筆者を毎回変えるようなスベスベもあればいいと思う。私個人としては、一度つきりでもいいから戦前のパリのことを誰かに書いてもらってほしい。となると、バーを何かはかのものにおきかえることもできるのでは。・東京などに行ってしまった神戸っ子は？

★表紙に用いた小泉先生作品展

① 神戸とそれに関連することをソフトタッチで紹介されるご方針のように察せられ基本的に賛成します。ただし、表面的な有名人の登場が多いようやマンネリズムに陥っている気がします。

② もう少し底辺に近い人達、例えば、手前味噌で恐縮だが当社の如く全国各地から来る若い人達の神戸観を座談会で紹介するとかB.G.、港労働者、鉄道員、パル勤務者、寺の話、それから、神戸在任の隠れたスベジャリスト、芸術家等の人達を探して、判り易い話を掲載し、読者層を広める

★楠本憲吉「俳人」

① 関西では、地区PR誌が育ちにくいと聞いています。よくぞ一〇号まで頑張られたと思います。地区PR誌不毛のジシックスを打ち破ってください。

② 神戸の24時間

午前0時の生田筋

〃 1時の三の宮

〃 2時の？

〃 3時の？

グラフィックに俳句、詩、短歌入りで紹介する。

★小林芳夫「兵庫県教育委員長」

① 神戸らしいカラーをもった記事内容を期待すると言っても無理でしょう。新しい企画のもとに大いに発展して下さい。

② 皆がよくなるで神戸っ子の発行を毎月待ち通しいようになるには大変ですが、そんなことを企画したい。

★安部正夫「ハリエンタルホテル社長」

① 当分は、今のままのゆき方でよいのでは

賞、春はまたまた酒祭りに神戸カ
ーニバルにと、神戸っ子の神戸市
民に対する奉仕は神戸の文化発展
に大きく貢献なされ、神戸の繁栄
と進歩に御協力なされたことを心
から感謝致しております。

チャーチル、吉田茂は偉大な政
治家でありましたが、ユーモアと
芸術を愛する人間味を持った暖か
い人でもありました。

神戸を愛し高度文明社会を築き
あげる力と強い自信をおもちにな
り、百号を記念して文化と芸術、
ユーモアを愛する決意を新たにし
て前進してほしいと思います。

★格好の案内書

永田良一郎 △永田良介商店△

百号にもなりますか、一号から
付合っていると、子供を大きくす
るのと一緒で、時間の経過が分ら
なくなつて……。この種の雑誌が
百号も続くのはめずらしいのだが
“よく頑張った”。

神戸は初めてという方に神戸の
町のガイドブックとして差し上げ
ておりますが、格好の案内書です
ね。ちょっと執筆者や取り上げる
人物が決まってしまうようだが
もつと広い範囲の人々に登場して
もらったらどうだろう。それによ
って読者層もふえるのではないで
しょうか。それに、もう少し社会
性を持った記事が欲しいと思うの

ですが神戸を山手と下町に分ける
と、「神戸っ子」は山手の本のよ
うな気がする。神戸は山手だけで
できているのではないのだし。
一日も早く、「神戸のために氣
を吐く雑誌」になつてほしい。

★全国でも群を抜く

武田繁太郎 △作家△

“神戸っ子”も、本号で一〇〇
号を迎えるという。ちょうど“兵
庫の女”も、本号で完結すること
になった。この作品のまえに、“
神戸夫人”という作品を、三〇回
ほど連載した。あわせると、私も
もう“神戸っ子”と六年ほどの長
い付き合いになる。読者や編集の
方々も、長い付き合いを辛抱して
くださったことを、ここで、心か
ら感謝したいと思う。“神戸っ子”
は、東京でも評判がいい。全国
のPR誌を調べている文芸春秋の
尾関調査部長も、“神戸っ子”は
同類誌では群を抜いていると、太
鼓判をおしている。私も、自分の
ことのように鼻が高い。一〇〇号
を契機に、一段の発展を祈りたい
ものである。

編集部

「神戸っ子」一〇〇号へのおことば色々
ありがとうございました。一〇一号からも
一層充実した雑誌にしてゆきたいと思いま
す。

ないでしょうか。神戸っ子らしい雰囲気
が定着してきたから。
② 古い神戸（戦前）が、記憶からも消え
うとしていきます。書き残す方法はないでし
ょうか。

★赤尾兜子（俳人）

① 一〇〇号というのはひとつの切れ目のよ
うなもの、編集がマンネリ化しないことが大
切。フレッシュ人の登場（神戸は常連になり
やすい）に主力を注ぎ、神戸在住者だけでな
く、もつと外から神戸を見て人にグロー
バルな神戸のビジョンを描かせること。
② 仮定の上の設問には答えられません。そ
れは編集者自身が考えるべきでしょう。

★直木太一郎（神倉庫車社長）

① 神戸っ子編集最初のセンスをいつまでも
忘れないように。お役人の公式的な発言はあ
まり載せないでください。港湾や架橋や空港
のビジョンはもう飽きました。洗練された野
党的立場を期待します。

② 流行に溺れず自主的なしんのある神戸っ
子の消費生活のあれこれを見つければ（金
もちだけの経営を改めさせるために、ほん
とに良い商人道に徹した店以外の広告はお断
りする）紹介する。

★古林喜楽（関学教授）

① “神戸っ子”サークルというようなもの
が、何か片寄つていて、狭いように思えます
もう少し幅広い「神戸っ子」にならないもの
でしょうか。取材がもっとマンネリ化しつ
つありませんか。

② 庶民の発言、若者の発言をもっとのせて
ください。神戸っ子である我々が神戸を案外
知らない。例えばギリシャ料理店等々、万国
料理店も紹介してください。神戸の刻々の変
貌も……。

★白川 澄（作家）

① 誌面全体が明るすぎはしないか。
② 下町の暗部の紹介や、その分析記事が欲
しい。

★服部 正（大阪社会事業短大教授）

① 神戸には、無名のまま、もしくは、その
道では知らぬ人もないすぐれた業績を持って
おられても、マスコミなどと無縁の仕事を進
めている立派な方々がたくさんあります。そ
うした仕事を紹介することを期待します。

② 都心に残る自然、街の中の田舎というよ
うな記事をつくってください。

★早川良雄（デザイナー）

① 執筆者や座談会の顔ぶれが、毎号あまり
変わり映えないようです。フレッシュな新人
（？）を発掘してください。



呉那陳磯
みよーや

神戸店 大丸 前
電話神戸 3332 三四八番(代)
大阪店 阪神百貨店三階
電話大阪 (361) 九五八四番
姫路店 やまとやしき百貨店四階
電話姫路 23 一二二番

さわやかな
夏の味覚
且月堂
冷菓



60円～500円

神戸にそだって 70年

 且月堂

元町3丁目 TEL 332412-5

さんちカスイーツタウン TEL 333455